

全国酪農経営体験発表会で県内生産者が発表

令和5年11月30日(木)に日経ホール(東京都千代田区大手町)にて第41回全農酪農経営体験発表会が開催されました。本発表会は、全国から優良酪農経営事例が発表され、経営数字を含めて審査員の評価を受ける伝統あるイベントです。しかしながら、昨今の飼料価格の高止まりの影響を受け、令和4年度に全国酪農経営体の8割が赤字収支を示した危機的状況の中で、経営数字の評価は困難であるとの主催者判断により、今年度は、行政・団体と連携して夢のある優良経営事例を紹介する発表会となりました。

今年度のテーマである～未来を創る「酪農のなかま」～に見合う発表事例が全国から5題選出され、本県からは、全農かながわ畜産部の推薦により、秦野市で第三者継承により酪農の新規参入を果たし経営を続けるリトルリバーファームの小川翔吾氏が「地元で酪農経営をしたい」～神奈川県初の新規参入・第三者継承の道のり～との表題で発表しました。当所は全農かながわ畜産部と連携して、プレゼン資料作成支援と発表の共演という形で、小川氏の取組が分かりやすく全国へ発信されるよう支援しました。小川氏によると、資料作成や発表予演等の準備を進めることは、自身の経営を振り返る良いきっかけになったとのこと。また、発表当日は大変落ち着いた発表態度で、他道県の発表者からも「とても分かりやすかった」との感想がありました。審査委員長の小澤壯行教授(日本獣医生命科学大学応用生命科学部動物科学科)からは、「行政を巻き込んで首都圏でも第三者継承がうまくいったケースとしてたいへん参考になる」との高い評価をいただきました。小川氏にとっては他道県の発表者や酪農関係者との交流も深まり、全国に新たな仲間ができるきっかけともなり、実り多い一日となったように見受けられました。

小川氏は当所の普及指導課題である農業の担い手の育成支援の対象者でもあり、今後も引き続き経営のステップアップに応じて支援を行っていきます。

当日は第17回全農学生「酪農の夢」作文コンクールの表彰式もあり、県立相原高等学校畜産科学科の畠田里桜氏が「私の描く未来の酪農設計図」と題した作品が優良賞を受賞されました。本県の酪農の課題を取り上げ、新たな提案をする素晴らしい作品でした。



発表会場全景



ステージ上で発表する小川翔吾氏



小川翔吾氏と発表を支援した関係者